

2010-2011年度 ブックスタート赤ちゃん絵本20冊が決定

「ブックスタート赤ちゃん絵本20冊」は、各地域のブックスタート事業で赤ちゃんに手渡される絵本の候補として、2年に一度開催する、独立・中立した「絵本選考会議」で選出されます。赤ちゃん絵本に関する知識と経験が豊富な5名の選考委員(乳幼児発達の専門家、司書、保育士など)が、日本国内で出版されている赤ちゃん絵本*の中から、選考基準に基づいて20冊を選出します。

2009年5月に、2日間にわたって開催された絵本選考会議では、各委員の専門的な視点に加え、赤ちゃん絵本に関する豊富な実践経験を踏まえて意見が出されました。

*NPOブックスタートでは、日本国内で出版されている赤ちゃん絵本を「赤ちゃん絵本ライブラリー」として収集しており、これらの絵本と、各選考委員から推薦された絵本をあわせた、約3,100冊の中から選考を行いました。

選考基準

- ・赤ちゃんが保護者と豊かな言葉を交わしながら楽しい時間を過ごすことで、心健やかに成長することを応援する絵本。
- ・上記に関し、年月を経て赤ちゃんから支持され続けてきた絵本。
- ・上記に関し、今後、赤ちゃんからその支持を受ける可能性が高い絵本。

選考委員

(敬称略・五十音順)

足立 茂美 (乳幼児発達・鳥取県立保育専門学院講師)
市枝 恵子 (保育士・社会福祉法人おさなご保育園)
北原 文徳 (小児科医師・北原こどもクリニック院長)

また、実際のブックスタートでの経験を共有し、候補に挙がったすべての絵本を声に出して読んで1冊1冊の魅力を味わいながら、20冊の絵本が、自治体の事業の中で手渡されていくことなどを熟慮して選考を行いました。

選出された20冊は、出版界の協力を得た非営利の仕組みの中で、2010年3月より2年間、NPOブックスタートから実施自治体へ提供されます。



選考会議の様子



横山 眞佐子 (子どもの本の専門店「こどもの広場」主宰)
吉村 悦子 (司書・東京都葛飾区立図書館)

■地域で手渡す絵本を決定する際に…

各地域では、図書館員や保健師が専門知識を活かしたり、実際に赤ちゃん絵本を読む機会の多い保育士が中心となったり、ボランティアを含む関係者全員で会議を開くなどして手渡す絵本を決定しています。また、選考の過程や理由を関係者で共有しておくことが大切です。

□特別支援価格での絵本の提供

「ブックスタート赤ちゃん絵本20冊」は、提供出版社に得失のない特別支援価格で、且つ出版取次会社・書店を経由せず、出版社から直接NPOブックスタートに提供され、他のアイテムと共にブックスタート・バックとして自治体に購入されます。2000年の子ども読書年以來、出版界(出版社・出版取次会社・書店)が、「ブックスタート・バック提供のしくみからは利益を得ない」という合意に基づき活動を応援していることから、この特別な価格と流通が適用されています。これにより、実施自治体に対する廉価でのバック提供とNPOブックスタートによる様々な支援事業が実現され、全国の活動の普及と充実が支えられています。

<2010-2011年度 ブックスタート赤ちゃん絵本20冊>

・あけて ごらん	文/村田さち子 絵/ディック・ブルーナ (講談社)
・あそびましょ	作/かどのえいこ 絵/おおしまたえこ (あかね書房)
・いないいないばあ	文/松谷みよ子 絵/瀬川康男 (童心社)
・おかあさん どうぞ	作/わかやますこ (童心社)
・おたんじょうび	作/絵/まついのりこ (偕成社)
・おつきさま こんばんは	作/林明子 (福音館書店)
・かお かお どんなかお	作/絵/柳原良平 (こぐま社)
・がたん ごたん がたん ごたん	作/安西水丸 (福音館書店)
・くだもの	作/平山和子 (福音館書店)
・ここよ ここよ	文/かんざわとしこ 絵/やぶうちまさゆき (福音館書店)
・ごぶごぶ ごぼごぼ	作/駒形克己 (福音館書店)
・じゃあじゃあ びりびり	作/絵/まついのりこ (偕成社)
・とってください	作/福知伸夫 (福音館書店)
・とけつこう よが あけた	案/こばやしえみこ 絵/ましませつこ (こぐま社)
・ねんねん ねこ ねこ	作/絵/ながのひでこ (アリス館)
・バナナです	作/川端 誠 (文化出版局)
・びょーん	作/絵/まつおかたつひで (ポプラ社)
・べろ べろ べろ	作/長 新太 (BL出版)
・ぼんぼんポコポコ	作/絵/長谷川義史 (金の星社)
・もこ もこもこ	作/谷川俊太郎 絵/元永定正 (文研出版)

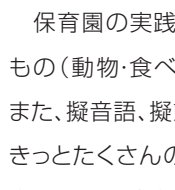
NPO ブックスタートでは20冊の見本の貸出しを行っていますので、ぜひご利用ください。お問い合わせは地域支援担当まで。

～選考委員から～ (敬称略・五十音順)



足立 茂美
(乳幼児発達)

この度印象深かったのは、「赤ちゃんたちもこの場に参加して、好きな絵本と一緒に選んでいる」という確かな実感があったことです。会議の席で、「どういうわけか、赤ちゃんって、この絵本が好きですよね」とか、「たいていの赤ちゃんが、ここのところをパッと食い入るように見ますね」といった、赤ちゃんたちの反応の様子が何度も語り合われたからです。ブックスタートが始まってまもなく10年。私たちはこの間、赤ちゃんがどんな絵本が好きなのか、赤ちゃんたちから教えてもらってきたのだと気付かされました。赤ちゃんたちの目となり心となって、1冊1冊絵本を選ぶ作業は、とても楽しいものでした。



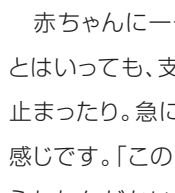
市枝 恵子
(保育士)

保育園の実践から学んでいることを基本にして選考にあたりました。赤ちゃんは、知っている身近なもの(動物・食べ物・乗り物など)が描かれていたり、絵が大きくはっきりしている絵本に興味を示し、また、擬音語、擬態語などが楽しく、リズムのあるくりかえしの絵本が好きなようです。選考された絵本もきつとたくさんの赤ちゃんに保護者に楽しんでもらえると思っています。また、保育園以外の分野での赤ちゃん絵本の関わり方やその他たくさんのことを学ぶ機会にもなりました。とても楽しくあっという間に時間が経ち、貴重な体験をさせて頂きました。



北原 文徳
(小児科医師)

落語とジャズを聴くことと、絵本の読みきかせが大好きな小児科医です。今回初めて選考会議に参加させて頂きました。大変光栄であるとともに、その責任の重さに身が引き締まる思いがした2日間でもありました。赤ちゃんへの絵本の読みきかせも、落語やジャズと一緒に、読む人と、聞き手である赤ちゃんが、その時間や空間を共有しているというライブ感覚が、その成立上最も重要な要素になっています。絵本の言葉のリズム、テンポやメロディが、赤ちゃんに心地よく届く瞬間、読み手と赤ちゃんが一体となる。ブックスタートは、まさに「その場」を親子に提供しているのですね。すごい!



横山 眞佐子
(子どもの本の専門店 主宰)

赤ちゃんに一冊の本を読んでもみました。私の顔をじっと見ていましたが、突然身体がぴょんぴょん。とはいっても、支えているお父さんの手の中ですが。興奮してきました。笑ったり、飛び跳ねたり、一瞬止まったり。急に私の顔を見たり。両親ともビックリして、うれしそう。赤ちゃんが本を読むってこんな感じです。「この場所(口)から音がでる。この場所(本)に色や形が現れる。確認したり、眺めたり、そのうちなんだかいい気持ちになってきた。だから身体が思わず動いてしまう。みんなが笑い顔になる。あー、うれしいな!」そう言ってるみたい。こんな喜びを引き出せる本を、ブックスタートに選んでみました。



吉村 悦子
(司書)

自治体では、ブックスタートで手渡す絵本が、赤ちゃんが大人になっても、家族が読んでくれたとずっと心に残る一冊になれば、と思って選んでいますので、その思いを大切にしながら選考にあたりました。会議では「長く親しまれていてどうしても残したいね」「赤ちゃんの反応を見ると、新しく定番になりつつある本もあるわね」「絵本を読み慣れていない人でも楽しく読めることも大事よね」などの意見も出され、納得のいく絵本が選ばれたと思います。なによりも楽しかったのが、委員の方々による読みきかせ。葛飾区で事業を始めてから図書館へ来る親子が増えましたが、どの絵本も、親子に読みきかせたい思いでいっぱいになりました。